

慢性硬膜下血腫について

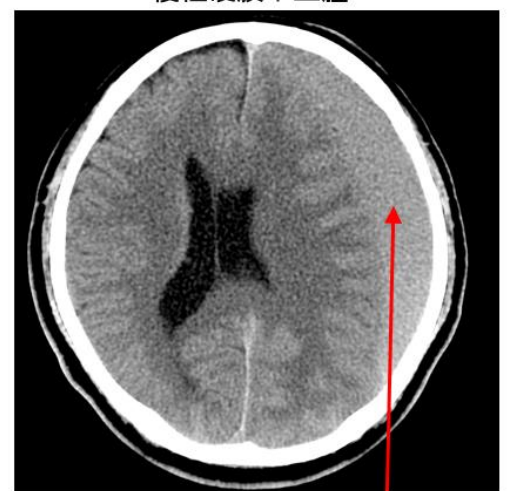
慢性硬膜下血腫は、硬膜と言われる頭蓋骨のすぐ内側にある膜と、脳を包んでいるクモ膜との隙間（硬膜下腔）に血の塊がじわじわと溜まる病気です。通常、高齢者に多く、頭部外傷が原因となり受傷後の約3週間から3ヶ月くらいの間に症状が出現します。出血と聞くと強い外傷を想像するかもしれませんが、受傷直後の頭部画像検査では異常を認めない程度の軽微頭部外傷や、はっきりとした外傷歴がなくとも発症することがある等、本症の発生病態に関しては現在でも医学的に解明されていないことが多いです。転倒以外では、アルコールを多飲する方、抗血栓薬を飲んでいる方、肝臓病や血液疾患などで出血傾向のある方は発症率が高く注意が必要です。

症状経過は様々で、軽度の頭痛程度の場合もあれば、脳卒中のように急に手足の麻痺や歩行障害が出ることもあります。物覚えが悪くなるなどの認知症のような症状で発症することもあり、血腫量が多くなると命に関わることもあります。通常は一側性ですが両側性のこともあり、ある程度の量になると脳を圧迫し症状が出るため治療が必要になります。

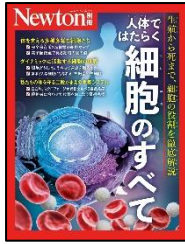
治療は穿頭術といって、側頭部に3cm程度の皮膚切開をおき直下の頭蓋骨に1.5cm程度の穴をあけ、そこからドレンという管で血腫を吸い出します。通常局所麻酔で行い、約30分程度で終了し、術直後から症状の改善を認めることも多いです。術後経過に問題がなければ1-2日程度で退院も可能ですが、約10%に再発があるとされています。特に高齢者で脳萎縮が強い場合や出血傾向のある場合は再発の可能性が高くなります。再発した場合は再度同じように穿頭術による治療をします。最近では再発を繰り返す方については、中硬膜動脈塞栓術というカテーテル手術で止血治療をすることもあり、当院でも治療例が少しずつ増加しています。このように以前と比べて多方面の治療が行われてきています。

高齢化や抗血栓薬の普及といった社会的背景によって、今後も慢性硬膜下血腫例は増加することが予想されており注意が必要です。頭部CTで簡単に診断ができるため、最近頭を打撲された方や気になる症状がある方はお気軽にご相談下さい。

慢性硬膜下血腫



脳の外側にたまった血液
(三日月の形)



人体ではたらく細胞のすべて
ニュートンプレス

あらゆる生物は細胞からできており、その働きによって個体は生命活動を営むことができる。細胞とはどんな構造で、中で何がおきているのか。ミクロの世界をのぞいてみよう。



不安を味方にして生きる
清水研

がん専門の精神科医であることで、不安と感情の側面について知り、不安との上手い付き合い方と限られた人生を豊かにする生き方のレッスン。



これだけは知っておきたい双極症
加藤忠史

「治療を受けているのに良くならな」と感じている患者さんは少なからずいる。そこには必ず理由があるはず。その理由を探してみよう。



永田町のシンデレラ
西川三郎

日本初の女性総理が腐った政界をぶ壊す。日本の政界に巣食う諸悪の根源を徹底的に炙り出す。



がんが消えていく生き方
船戸崇史

がん罹患して13年たって学んだ癌と生き方の関係について書かれている。がんで悩む患者さんの気持ちがる楽になる希望の書になることを望む。



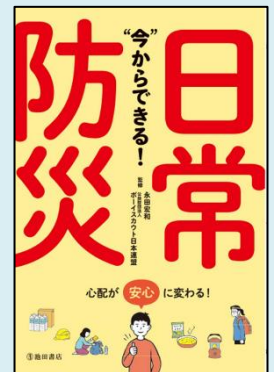
夜に星を放つ
窪美澄

かけがえのない人間関係を失い傷ついた者たちが、再び誰かと心を通わせることができるのかを問いかける短編集。

お勧めの一冊

"今"からできる! 日常防災

この30年の間に私たちは「阪神・淡路大震災」「東日本大震災」と大地震を経験しました。そして、今後は「南海トラフ地震」などの大地震が発生すると予測されています。皆さんは災害への備えはできていますか。災害時のために備えることがとても大事なとだと分かっている、何とかなる、自分は大丈夫だと思ってしまうところが人間の心理にはあります。地震の発生は避けられなくても、地震によるダメージは減らすことができます。でき得る最善かつ最大の備えをしましょう。まずは、家を安全な場所にする、そして、必要なものを携帯すること、家に必要なものを備えることが大切です。しかし、高齢者、乳幼児、ペットなど状況によって必要なものも変わります。この本は防災についてのイラストがたくさんあって楽しく読むことができます。やることリストが掲載されているので、この本を見ながら準備されてはいかがでしょうか。



(看護部 小林喜江)

【お知らせ】

2025年、初回のお知らせとなります。今年もよろしくお願ひ致します。暦の上では大寒も過ぎ、2月に入ると少しずつ春の様子が感じるようになり、また、早い方は2月中旬ごろから、花粉症の症状が出るかと思ひますので、早めに受診し快適に春を迎えてください。さて、昨年9月から開始しました「がんピアサロンあづまっぺ」は、毎回サポーターの方やがん患者さん、ご家族を含め8名くらいの参加者があひます。そこでは、病気の話やペットのこと趣味や仕事に関することなど、幅広く話題があがり、みんなで楽しくサロンが開催されています。自宅に一人であると、病気のことを考えてばかりで、なかなか気分が前向きになれない時もあるかと思ひます。サロンに参加し、お話をしたり、他の人のお話を聞いたりすることで得られることが多々あると思ひます。予約は必要ありませんので、お気軽に足を運んでみてはいかがでしょうか。

がん相談支援センター 古沢